

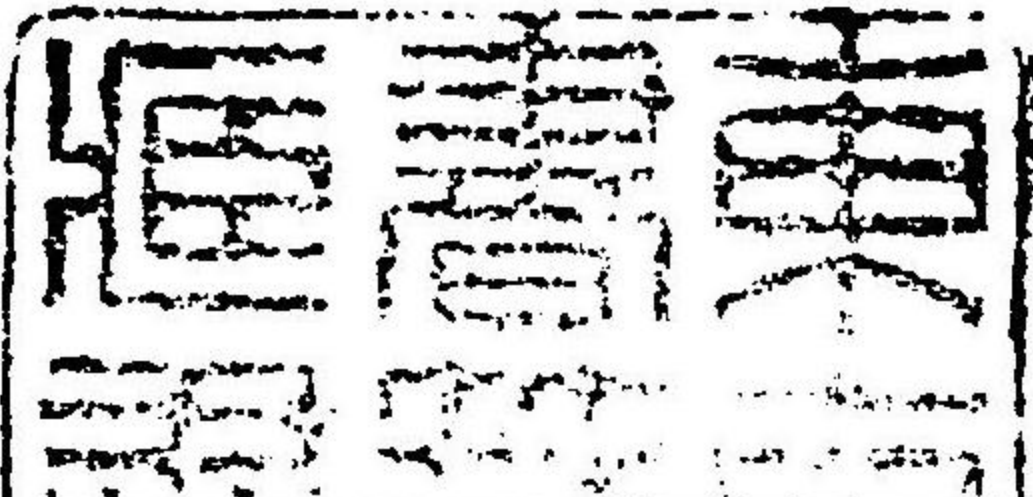
特 54

155



内外事情
初編

特54
155



内外事情卷之二

東江學人 纂輯

郵便の事

郵便の事
ハ飛脚のあつて現今日本にて行ふハ
郵便の法も矢張西洋の仕方と儼然たるも
の多ク西洋よりも近年までハ日本のおれまで
の飛脚の様ある法ゆゑ其價も高く不便利のあ

も多うろしゴロウランド。セルとくする人の
考つて現今の如く便利の法と發明しつゝ此
法の蒸氣船電信機あぶの發明と同様よ人の賞
譽も新發明の一あり其起原を尋ねるゝゴウラ
ントセルとくする人一日歩行せし或る所の
女子其兄のつがまつゝ旅行せんときと當り
留守ちる數々其安否と便りせんことを願つた
も手紙と送ねる其賃錢のわくもをそれ貪究

の者あれを如何ハせんし嘆きし不圖一工夫
を考つて一兄と約束して政府を欺んと謀
るを見たり其仕方と兄より手紙を送りたると
に其上封と見れを既に不事あるあり明あるゆ
へ事と托し彼是し其手紙を請取らば賃錢と
拂しぬ工夫ありゴウランドセルあれを見て其
謀る所の悪事あるも元困究よりわたりたる
事とて其情もわきまむづく畢竟飛脚の仕法の

一 俗しきもの故に之を改革し萬民の利
 益を起さんと深く工夫をあらわし今の取扱方を
 發明しられたるも猶りらくとやうしく云ふ者
 ありて定まらざりしごとく彼の千八百三十
 九年八月令より四十四年前議事院より之を採
 用し其翌年より施行せられたる此法一たび行され
 ば其運送の便利ハ元より國の端より一
 一送るも一日ハうらぬ程よそ如何なる田

令より手紙
 の達せぬ處ハ
 あら様々成た
 れバ人々其便
 利を喜ぶが如
 者あるのみあ
 らば下々の者
 一に至るまで皆

郵便の様子



手紙を認めんと欲し銘々文字を學ぶ様あり
 手紙の贈答もよきより増したりとロウランド
 此ルとわける國益を起したるもけふも其後
 四十六年より至り國中有志の輩相議して其勲勞
 と謝せん各々金を出し四千兩許を贈りたり
 其後よりより盡力して諸國への飛脚の法則
 と改められバ政府より亦その功勞を賞し大
 身分を進めたり○西洋諸國より飛脚のあり

ハ政府より役所と設けて取扱ひ國內を元より
 外國へ送る書翰も亦秒々取扱ふありハ嚴禁
 して之を犯さざる過料を取上るの法あり
 故に書状を送らんも々現今日本よりより
 通る政府より郵便切手より大さ七八分位の
 切手をつくり定價を以て一町おくり之を賣捌
 く店よりすく一町毎に書状を差入る箱ありゆ
 一諸人あゝの切手を買ひ書状を送る路の遠

近し書翰の重き輕きよりてそれの切手を
上封の端に張て郵便箱に入あけが直に郵便役
所より之を取集め國內へもちろん世界中の
この處まで相違なく届くはあり其便利あ
るハ元より政府の利益とあるありす夥しき
事よて英吉利にて々々此飛脚賃の利益凡そ
千三百五六十万兩余ありしなり

○諸雜稅の事

今上りし所の諸稅の外に國內の産物より収
むる稅より其稅もまた輕重なりて酒烟草の
如く驕侈しめりしは稅重し其外茶屋料
理屋馬車屋芝居等の類ハ官府の免許を受けて
別段の運上を収むる高賣り又其外奴僕を召
抱ひ犬馬を飼ひ車を所持する等皆夫々の稅
り但し犬を飼ふ元々玩弄するもののみ
ら市中を汚し時よりて人を害するあり

此の如く漫く犬を飼ひつゝの方略ありと其外
 瑣細の課税数多りて仮令聊たとも彼の税
 を取て此税を取らぬといふありあらず
 其内にも今日活計に必用ある物ハ税軽く驕後
 属するは税重し

○會社の事

會社と仲間のありて西洋にて人々力を
 合せ心と同じてとも國益を謀る風ゆつ一人

の力にて企て難きありハ皆仲間を組み社を結
 て資金を募り其事を共く之と商人會社とい
 ふ斯く會社を結ぶるは官府に願ひ其資金
 かけの引當を為し免許を受て金を集るあり其
 集方ハ會社の資金十萬兩入用ありて手形を十
 萬枚つくり一枚を一兩づつして何國の人にて
 も賣渡きあり此手形を買ひて所持するれば
 ハ會社より年々四五分の利且を拂ひ其上商賣

の利潤多けきバ尚余分の利足を拂ふあり又金を急集りんとする時ハ一兩の手形を三分貳朱位に下るありも此手形を所持の人よて金子の入用ある時ハ相對して此手形を賣買まづ其會社の繁昌して多分の利足を拂ふ手形も元金一兩のもつと一兩一分余の賣買あるよ一萬一此會社の分散する時も政府より其引當の品を賣却て其手形を買ふたる者も拂ふゆ

手形を買たる者も仮令會社のつぎきるとも損毛きるありあり此會社もつりくつりて或ハ傳信機の會社つり或ハ蒸氣車の會社つり或ハ兩番會社受合會社瓦斯燈會社等つり其大略を次に論ぶ

○受合會社のうちにも種々つりて或ハ家宅或ハ船中或ハ蒸氣車等の別つり家宅受合會社ハ毎年そねくの金を此會社に納むる時を若

其家宅火災等の如き変事有りて損失する時も
會社より之を修復するありゆつゝ無事の年々
皆會社の利益あるも若し大火事等して數軒
損失する時も會社の損毛ありあつゝ故に此
會社より多く火消を抱え出火の直に此
人足と出まよつゝ○船中受合會社も大抵家宅
受合會社と同様にして船を造りたる時此會
社より其船の丈夫あるゝ弱きと見定め或ハ

二十年の間に十五年の間の受合とあり其年
限中何程づゝの金と會社に納むべき萬一其
年限中破船するも會社より半方より三分
の一との約定通其損毛を船主に納むるあり又
蒸氣車も船中にて積荷の受合とありあつゝ
何れ仮令日本より英吉利まで百万兩かけの
荷物を送る時此會社より千兩を納め置けり萬一
破船して荷物を失ふも會社より三十万兩を

償ふべし或ハ二千兩と納りあげが五十万兩と
 償ふべし皆夫々の約定とありし此會社にて
 ハ數多の受負とありし折節ハ大金と出まお
 と何れども双方入合をば随分利益ありし
 又受負を頼む方にても平常少々づゝ余分の金
 と出し置ゆく萬一家と焼き船と破り荷物を失
 るとも身上と滅せ程のありもあく至極し仕
 方あり又救船の會社あり又淺洲や暗礁あとの



燈臺
浮標の音

燈臺
浮標の音

内々事 卷之二

所の海岸に燈臺と建て航海者の標的とあ
 るの會社あり或ハ地理會社として海外不毛の土
 地を開拓し物産を製出せしめたり又瓦斯燈の
 會社あり是ハ下の瓦斯燈の部を見れば其外何事なく大抵
 會社と組み多くの資金を以て事をあそゆ一自
 然に利益多し一人して利を得んとせん之
 資金を以てしらく無理ある差操をきる者ハ
 却て利潤少ししる

○遊園の事

遊園とて天下の人々の遊ぶ園として西洋の人々
 ハ衣食住を美觀最上の一才出さし馬車
 といハ蒸氣車と觀樂を極る様あり又あり
 と為し時に至ると心を苦め氣を勞らし出と最
 も甚しく東國人の極て心と勞きありあり
 又極の樂みもせが只ぐびぐ急情し暮まが如く
 風儀あり又料理屋ありて公然酒をのむ歌

海外事情

舞とあそ様の見世もあそ持ぐ時と十分かせ
 又遊ゆ時と十分かせ風あり是人間の氣
 カヲ大抵とすのりもはゆく只氣を遣ふ
 かつらとて樂もせざれば遂く虚弱あり身体
 害りるあそ皆人の知る所ありとて學問とあ
 一物と考究する等と至てと別して然る故に折々
 と心を慰むとす一板令ハ美食を求め輕衣と着
 多し如きを皆人々の心と任せて勝手と出来る

あそども或ハ築山と築と泉水と流一花銘木
 と集りて目と慰む等の如きとす一人の力
 及ぶとすに故と之等と政府より夫々
 世話とやと萬民の都合とす所と撰み宏大美麗
 の園を設け數種の名花と集り或ハ築山と築て
 瀑布と落一或ハ流川を引と景色勝麗の場所と
 作り上王皇より下諸人に至るとて皆茲と来て
 共と心と慰む目と樂とすあり日本とすも

公園の音



今般淺草芝深川八幡其外萬人の輻湊の所と公
 園と定めらるる政府より御世話りて萬民の樂
 し場所と持いらるるに實に難有ありありしがや
 然る止ハ士農工商とも平常ハ夫々の家業を勉
 勵勞作し無益の金錢を費さるる家も富
 國をゆくゆく一ヶ月と三度らるるハ四
 度の休日と立て主従丁雅と至るよを皆公園
 遊歩し氣を慰むる是真に心の保養とて百

藥の長よりいふべし

○國債の事

國債とは國の借金といふありて萬民より借
たる政府の借金をいふあり現今日本政府は
も内外の債をとりて判然と御沙汰は相あり貸主
とも夫々證券を渡し若干の利足と下され追々
元利とも御返却はあるごとく實に公明正大の
ありあり是迄ハ政府よりも諸藩よりも富商大

賈より借財し或は百姓より用金ありて高割を
以て申付るあり萬民の財を私有せしむるも
最早右の如き風儀を決してありありて西洋
諸國とも太平無事の年々大抵其年の年貢として
一年の入費を仕拂ひ平均に至るを常とせむと
も若し戦争しても起り非常の入用ある時は是
非とも金を募ると得ざる時ハ政府より國
内命令を下し手形を出して萬民の金を借るよ

とらむも大商人の高を指して申付ゆひハ
 石高と割附もあどのあく只人々の意に任
 せて貸あを好む者とう好まざるもけハ出
 き及ど比之を借るに仮令バ十万兩入用あ
 ハ手形十万枚を作り一兩出せりもけ一
 枚と渡し百兩貸さんとき者も百枚と渡さ
 り金と出したり者も此手形を所持せり年々
 三四分きりも百兩に付三四兩の利足を得る

と以て強て元金の返済と願ひ又此手形ハ紙
 幣も同様相互に賣買せりゆ正金を所持する
 と大なる異あり又政府も古より愈ありて
 其高愈増し随て利足も愈加り次第に相續て遂
 に驚び大借金とありありはまも此國債
 の法ハ決して破るあり若し破るを國中
 の債主もち争乱と起さるゝ又無事の年ハ
 ハ夫々工夫とありて國債と返却するゆ大

減るありけり其元金を返せ國の手形ハ私に賣
買する元金より高く荷蘭の百兩の手形ハ百
十兩位の賣買あり是ハ利足も高く且時々政
府より元金を返すあり又西班牙國の千兩
手形ハ僅く五十兩位の賣買あり西班牙政府
の貧乏あり推てあるべし日本の國債も大
ありしりも西洋諸國に比ぶると余分ありし
りしりしり殊に確然とせり規則も立りきり

以後政府に御用立る金ハ譬如何程ありても更
に心配あり且盜難火災の憂あり年々夫々の利
足を受け又返却も相成ハ實に公明の法あり
ずや

○學校の事

九人主として文字とありざる程の不自由ハあ
り且文字を知りざる物之道理も暗く遂にハ
政府の法を犯し罪あり入事たり或ハ旧來の

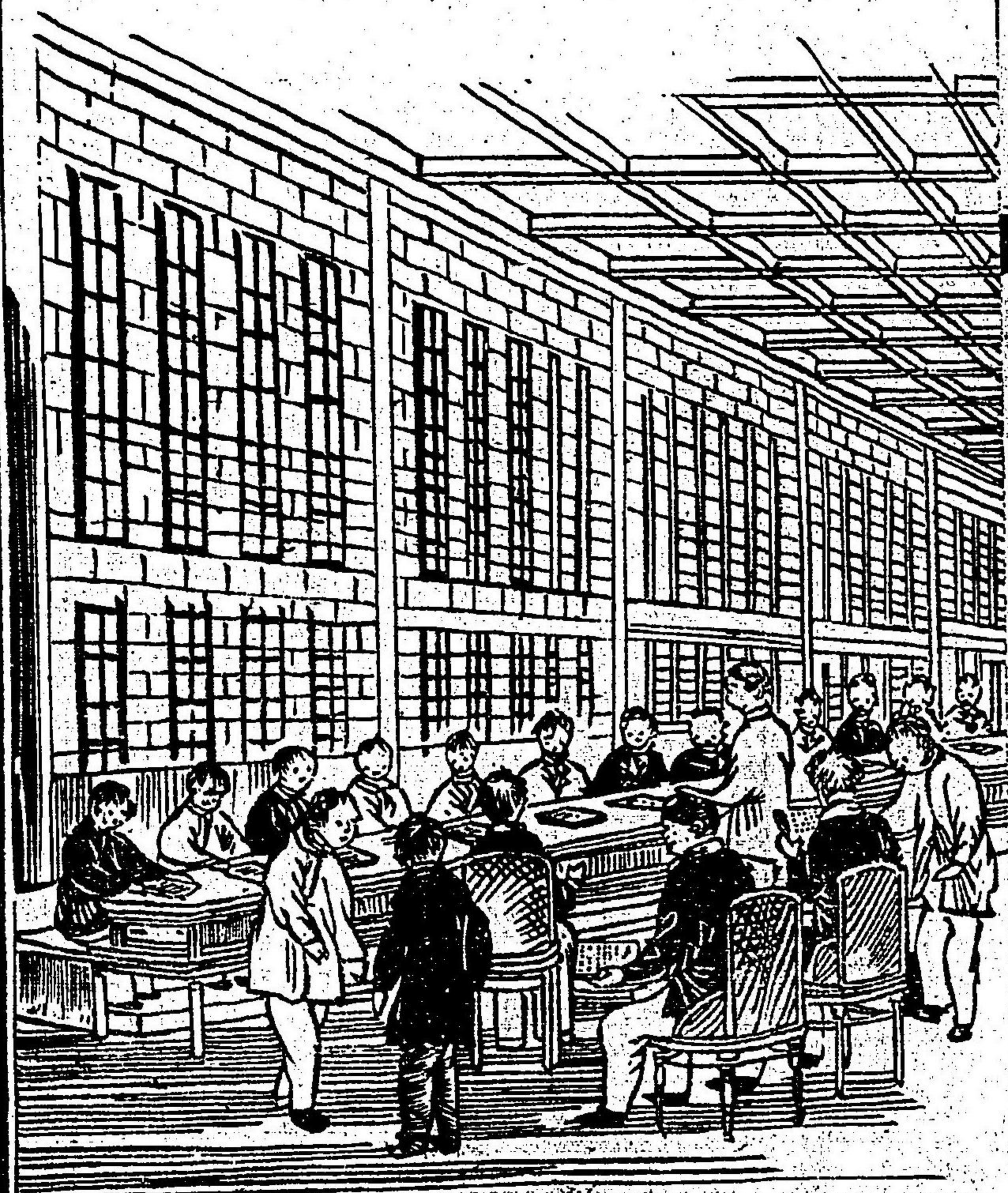
慣く固陋一日新の便利あるを知るの知覺もあ
 まゆく透く貧究くもあつるゆへ真く學校ハ文
 明開化の登るの階梯あり故に近年日本國中一
 普く學校を建てせられ厚く御世話ありあ
 れば人々早く文字と習ひ物の道理と識り西洋
 の如く自由安樂と謀るべし西洋各國より都下
 村落に至るまで學校の無き所ハあく或ハ大學
 校中學校小學校醫學校あり其内にもさまざま種々

の學校ありて或ハ政府より建て教師に給金と
 與一人教授するも亦もあり又人々の申合
 して互に金を出し學校を建て教授するも亦も
 あり或ハ下雅奉公人の如く晝間用事のりる者ハ
 夜斗教ゆる學校あり或ハ日曜日なきを教ゆる
 學校あり又落者に教ゆる所あり或ハ啞聾を教
 ゆる學校あり人生きて五六歳より男女とも皆
 學校に入るより自國の語法文法書法等を教

慣く固陋し日新の便利あるを知るの知覺もあ
 さゆく遂く貧究くあらゆるゆへ真く學校ハ文
 明開化し登るの階梯あり故く近年日本國中
 普く學校を建させられ厚く御世話ありあ
 れバ人々早く文字を習ひ物の道理を識り西洋
 の如く自由安樂と謀るべし西洋各國より都下
 村落に至るまで學校の無き所ハあく或ハ大學
 校中學校小學校醫學校あり其内よりさまざま種々

の學校ありて或ハ政府より建て教師に給金と
 與一人に教授するも亦もあり又人々の申合
 して互に金を出し學校を建て教授するも亦
 り或ハ下雅奉公人の如く晝間用事のりる者
 夜斗教ゆる學校あり或ハ日曜日をもて教ゆる
 學校あり又聾者に教ゆる所あり或ハ啞聾を教
 ゆる學校あり人生きて五六歳より男女とも皆
 學校に入るまづ自國の語法文法書法等を教

學 校 内 景



旁らゝ算術等と學まなばらしむ夫おより次つで自國この地ち
 理り歴史しと熟諳じゆくざらの究理きゆうり天文てんぶんの初歩しよぽと教おゆす斯か
 く普通學ふつうがくとあきららし七しち八はち年漸しだく熟じゆくして又また大學だいがく
 校がくへ入いるあり但たゞし小學校しょうがく大學校だいがくがくといふや學校がく
 の大小おほいしりりば只ただ高上こうじやうの學課がくかと教おゆすし初學しよがく
 と教おゆすしよよつてあり大學校だいがくがくへ入いてししハ各かく
 が志しを所しよの學科がくかへ移うつるる譬たとへば醫師いしやとありんんと
 思おもひ者ものハ醫學いんがくと學まなび兵家へいけとありん者ものハ兵學校へいがくがく

海外事情 卷之三

移るあり斯く六七才より初て學び十八九歳廿
 歳位と成業の年齢も斯く兒童の時より日用の
 事を教るゆへ自今の國の地理歴史府縣の民口廣
 狭位のみを知ざる者も稀く下男下女の
 如く卑賤の者よても尚讀書一或ハ新聞紙を讀
 て時政の得失を評論一啞育人よても書翰の往
 答もよぐ如く皆通例のみならず英國よても
 年々新刻の書數四千五六百品下らざると是と

以て文明教化の國たることを一文字
 の數多しげ且文法の簡易ありゆへ一
 ○毎日教授は朝九時より始り十二時終る中
 食して又午後二時より五時まで稽古き稽古中
 と最も嚴しく或ハ賜見一言語ものみ如く
 も皆夫々の罰と與ふ然れども其間も休の時
 間りて必ぞ遊ばしむ故に學校の傍よと必ぞ
 遊園と設け花木を植一流川を引築山を挿ひ

ト
 一
 一

遊戯奔走の地々ありて休の間に皆うろく出て或
 ハ網渡り一或ハぶらん或ハ輪を回一鞠を投
 け四肢と運動一身体と健康をも之と云ニ入
 ちクしハ又此遊を教ゆる先生有りて子供
 ハ必キ此遊とあそび故ク苦學するも
 も身体健康ありて日本も現今ハ大抵此法
 と用ゆども往古の讀書人と只勉強するのみ
 と知て養生とせざるゆへ大抵身体脆弱して勇

運動場生徒遊戯の画



高橋
 四半の四半

四半の四半

あく無用の人ゝあれは是國家の爲として學問
 却て國家の厄わざ々わざとある。實まことと愚おろその至いたりて
 ○平人申合せ互たがひに金と出だし學校と立て謝禮しやれいと
 取らざ只貧乏人の子のみを教しる學校りて其外
 夜學校日曜日學校等其數尤澤山あまりて普魯士
 國あざりて獄屋の内うちにも學校りて三四日毎
 一々罪人ざいじんと出だし教授きょうじゆとす。是と推おして教育の行
 届いたる。とある。斯かく小學校より漸か々か修業しゆぎやう

階級かいきゆうと登進とうしんる毎ごとに必かならずに都府みやこの試檢しけん學校がくに至いたり
 學問の力の試檢しけんを受うて此者こゝろは何等なんじゆの才學さいがくり
 と云いふものの免許めんきよを受うるあり故ゆゑに此學校こゝろに
 裁判役議政官諸先生方出席しやうしんし書生しよせいと檢問けんもんし其
 免許めんきよを受うる。人の名なも政府せいふより出だし又新聞紙しんぶんに
 出だし國中こくちゆうより出だし人々ひとびと其免許めんきよを受う
 け何等學生なんじゆがくせいありし稱号しょうごうと得えるを以もつて榮さかし
 き且かつ一等いちじやうの軍艦士官ぐんかんしやかんありし一等いちじやうの級きゆうと經か

内外事情 卷之三 廿六

て一等の免許状と得たる者より、これだけ成る
 ろ、能うば又村儒先生、ても、藪賢先生、ても、
 皆右の次第あり、故に虚名を飾りて人と惑はせ、
 如きの憂ひあり、且大學校、も、千種萬品の書と
 集蔵する、文庫ありて、自ら書籍と贖みの心配を
 其外文庫博物館等ありて、萬人の智見を弘む
 の諸道具も更く欠乏あり

○文庫の事

文庫と書物蔵のあり、西洋各國の都府、
 皆此文庫ありて、日用の書物、画類、古来萬
 國の書に至りて、悉く備り、何人と論せば、此庫
 に至りて、讀むハ、勝手次第あり、但、毎日庫内、
 讀むハ、勝手次第あり、自家、持歸、と許さ
 ば、佛蘭西の文庫、も、百五十万卷余あり、此書
 自國、も、新、出版、も、其書一部、と文庫
 納り、外國の書、と買入、あり、此法現

今ハ日本も行われ新版書ハ皆三部づくと官
 納り旧昌平校のて書を集め何人よて
 も勝手拜見とて得ぬ其外街店ノ數書と
 集置と些少の見料と以て見ると所り實學
 問とよと自由自在の世とあま

○博物館の事

博物館とて世界萬國の産物珍物等々人の知見
 と博く物と皆之と集置く場所なり其内數

局に分る○書畫局とて古代始て字と考ひ一頂
 々の書畫類のひと名哲の手筆珍奇異様の
 書籍類に至ると之と蔵ふ○古物局とて大古
 羅馬時代の佛像と多く陳列するひと木石銅
 の彫像の其外古鏡古鐘古貨又と大古の城趾
 掘出したる古瓦奇石武器類其外無數の古
 物と納む○動物局と就中奇觀とて獅子象虎の
 如く大獸と微細の虫魚に至ると生あり

養つるものは各々其性に従て食物と與へ暖國
 の禽獸と暖く海魚と硝子器を入る時々新
 海水と與つて生あづる貯るあづる生ととげざる
 りは硝子の壺に入る薬酒と盛りて貯るゆ
 更く活物と異なるあづるあづる斯く世界中の珍禽
 奇獸皆此内よりざるものはあづる○礦物局より
 世界中の諸金屬瑪瑙珊瑚の類其外異石奇金の
 如きも皆其部を分て陳列を○今よりより所

の諸品國內よりざるものは遠く海外萬國よ
 り寄集むるを以て珍奇の品殊く澤山あづる斯く
 天下の奇物と集置る萬人の耳目と博くを上よ
 り下民の智識と弘めんとする深切至るこい
 ふべし○又醫學に属する博物館より夫々室を
 分ち人体四肢と解剖しつるひと骸骨と集め又
 ハ胎子と取り硝子の壺に入る醜耐と盛りて初
 月より十月までの形を示せりはつる其外動物

植物の内景又と長人の骸骨等一も備りたる
もはあしと

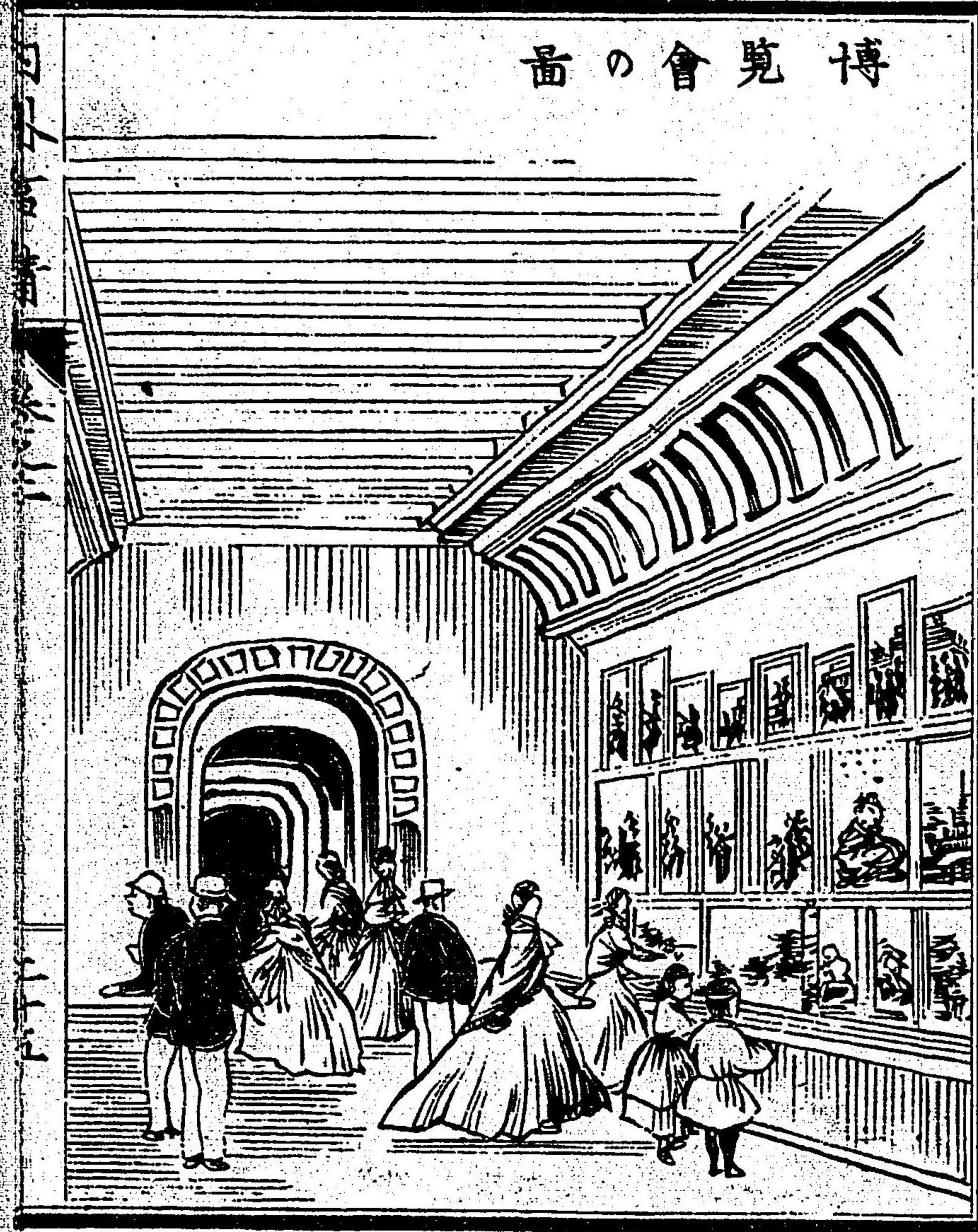
○博覧會の事

博覧會とて世界中の國産其外古今の品物等何
れも一人の目く珍しきもの持寄り互
に見物して他の長ざる所を取り己の利とあそ
りはして早く云一が智恵工夫の交易あり日本
も昨年も旧昌平校文部省内に小博覧會あり

當年々山下御門内に入りて各々珍截する所
の物と出り古来より奇物近頃の新奇明りは
其外千萬種の物品を排列して貴賤を論せし見物
と許され日々老若男女群集せし是れ一府に
設けたる博覧會ありても世界萬國より寄集る
博覧會あり之を開ふるとき先づ廣大
ある厦屋と造營し一年も二年も前より萬國に
報告し各々其國の名産便利の器械舟車基場の

模型より時計農具馬具衣服化粧道具のひと
 古代より名器書画等に至るまで一々数ふべ
 うに又禽獸草木あはれ大庭の中にあつて或
 ハ池に遊ぐ籠に飛せ奇花妍と競ひ異鳥美と
 争ふ又老若男女と論ぜば世界中の人々輻湊し
 博く之を展観せ故に博覧會といふあり此觀
 場を開く沢も各國の風俗技藝も日々に替り新
 規の發明等も随て多けき去年まで便利あり

博覧會の番



りけしりしども今ハ無用の物とあるあり多し
 故に各々長き所りゆはと出し互に智恵を博
 り且都下と繁昌しきるの方便あり抑々博覧會
 の創りて彼の千八百五十三年今より二十年前英吉利
 の首府倫敦にてしりて波黎殿と云ふ硝子
 張の觀場と造りし之とせしめし其後佛朗西
 して之れ倣うて觀場と開き又近く千八百六
 十七年佛朗西の都にて第二度目の博覧會あり

此時ハ日本よりも種々の器械國産ハ申し及む
 び輕業網渡茶屋女の類しを参りたるもの人
 の多し處あり此時の觀場の地面のひろさハ日
 本しりて九十二丁四方此觀場を造營する費用
 百四十万兩余あり是を以て其宏壯美麗あり
 あしと察せしり且萬國より其所々の芝居輕業
 茶見世の類し至るまで相聚るはゆる僅數十
 歩の地と徘徊しきる萬國の風俗技藝を見真し

萬國と歴覽し來りて異ありて實に天下の壯觀
 一時都下の繁盛あるあり云々方あり
 と又今年と地地利大博覽會ありて萬事俳朗
 西の博覽會に倍するよ日本よりも多人數往
 きたりて右の人々帰國次第信其様子も譯る
 〇博覽會と大抵五六月の間にて此所に出
 せる品と會のきむやぐと買取るあり能はざれ
 ども會中其持主と相談致し置る會濟の上ハ

賣買勝手次第あり又ハ入札して賣買するも

〇新聞紙の事

新聞紙と世間の新と事柄と探索て之を記
 萬人の報告するあり故に其便利あり
 と云ふゆゑに居あがり世間の珍事民間の情
 實政治の得失萬國の治乱を知り聞見を博く
 事情を明し文明に進むの一助なり〇

新聞紙ハ毎日出版キル。或ハ七日目位
 出版スル。其ノ内、現今ハ日本ノ新聞紙ノ
 數六七十種アリ。東京ニテ能ク人ノ知ル新
 聞雜誌、日々新聞、日新真事誌、報知新聞、其外平仮
 名、仮名附等ノ類色々アリ。又各種々ノ新聞紙と
 集メ置若干ノ見料トシテ見セシメ、店ナリ人々聞見
 知識を開クントスル。必キ新聞紙と見ル。新聞紙
 新聞紙ト載セシメ、所ノ箇條大約左ノ如ク

○其國朝廷ノ評議 ○官省ノ公告 ○吏人ノ進退
 ○市街ノ風説 ○外國ノ形勢 ○發賣ノ志 ○
 賣家賣地貸家等トスル。又家地面
 事ト索シ、其ハ ○金銀と借リ又ト貸スル
 事ト。其ハ ○失物と尋ル。其ハ ○學藝ノ景況 ○交易
 ノ盛衰 ○耕作ノ豊凶 ○物ノ價ノ高低 ○民間ノ
 様子 ○諸般ノ罪人。其ハ 訟獄裁判 ○學校ノ新
 事 ○戲場ノ評判集會ノ報告 ○不意ノ凶變 ○氣

候風雨の評説○新版の書目其外異事珍談も
 て人の耳目と新ら〜事ハ皆記載〜或ハ圖画
 を加つて之を示し故〜彼邦〜々官報私報と
 も大抵新聞紙〜出〜知〜其外富會無盡
 の類の闡當りも大抵新聞紙〜出〜知〜
 由て始〜第何會目の闡當ハ幾日の新聞紙と
 見〜づ〜斯く何事〜も人毎〜知〜せ
 べ〜新聞紙〜知〜と以て極便

利あり○新聞紙ハ極安直り故〜西洋の新聞
 紙ハ日本の半紙六枚継位の紙〜裏表字〜りて
 十五六萬語も〜大抵日本〜百文位
 あり且新聞紙も早〜と趣〜皆蒸氣器
 械を以て摺出〜一時の間〜二万枚を得〜
 ○又開店の報告の如〜私用を新聞紙〜出〜
 ん〜思〜時〜新聞紙局〜到〜其頼む所の語數
 多〜らて夫々の代金を拂ふ〜

○新發明免許の事

西洋諸國より市街村落の論あり博物館と設け
 置人々の聞見才智を進め萬事器械を以てあり
 と為し一人を以て十人の代りんとする風儀ゆ
 へ新規發明の器物も随て多し故に官府よりも
 べーテントと云る役所を立て妙術奇器等を新
 し發明せし者より官府より其發明人のみ發行
 の免許を與つて他人の倣造するを防ぐあり此

役所より從來免許を與つて發行せる發明の器
 具のひも技術等を記せる目錄書ありびし新
 發明の模形を備へ置けり且此免許の規律も色
 々ありどもすべし人々自己の才量と以て發明し
 或は外國人の發明しして既に世に流行するも
 のにして之を始て國內に受傳へし者ありども皆
 夫々の等級を定め且元金ハ何程なり其功用
 と幾何なりし事と鑑定し或ハ三年五年又ハ十

年一番より其の十四年と年限と定め其發明
 人の名を銘し年限中の間と其發明せし者と其
 術又と其器の株主とあり之より印鑑を與へ役所
 の権を以て之を保護し其年限中ハ柱主の外安
 し他人の働造を得せしり蓋し年限を立る澤
 と此年限より他に一層しと類器を發明も
 りは其の多を以てあり又年限は長短を發明も
 り時の元金を取戻し其上骨折を贖ふほどの利

分を得づるやそのの歳月と計りて之を定むるあ
 り○日本人の風習を見し古より諸藝を好む
 者多けしども今之と西洋人の手際く比ぶると及
 むざる所ありしに似たり西洋人の杖藝を講究せ
 る様子と聞くに父志と起して果されば其子
 之と継ぎ其子之と仕しはされば其孫も之を
 継ぎ遂に成業し至るは止むべしと斯く刻苦
 勉勵する所以と則ち發明免許を與ふる役所

うて一事と發明をれば其身ハ元子孫に至
 るまで安樂ある故あり○凡そ新器の妙術を講
 習するハ大抵人情の好む所あり日本も隨
 分之所為し心志を盡し其に至りては財産
 を傾け身を貧究しあらしつても嘗て悔ひざる
 者あり斯く心苦しむ發明し得ざるも亦くても
 發明官許の法あり時々忽ち世上に流傳し肝心
 の發明せし當人よりもと元手も取戻さぬも

世上より之を以て許多の利を得るも亦り況
 や新發明と為る程の人ハ大抵俗才之く日
 々の活計も無覺束程の者ゆゑ其業ハ貴むるれ
 ども其身も無益他人の重寶とあるのみ名も
 知れざる者あり西洋より右發明免許の法嚴
 重ありゆゑ一事と發明し又を傳習せし者あり
 大なる利分を得るありゆゑ國中の人々擧て
 憤勵し智巧と闘ハし奇巧簡便ある器械と發明

大艦を製し巨砲を鑄り橋を架け山を鑿り河
 と撈り了る如き大業し木を鋸り布を織り席
 と組み紙を抄き粉を舂く如く鎖細の事業し
 至るまで悉く蒸氣器關を用ひらるひと奇功あ
 る器械を以て之とあをゆく大に人力を省き其
 捷速あるありしゆゆは是則ち國と富きの
 源あり我日本も現今も此法少く行くと
 とも今一際此法を盛大くせざん人民の財

藝俄く上達するありあるは一仮令萬國未曾有
 の發明ハ出来むも西洋人數百年の間心力を
 盡して發明せし事を今學び傳ふるも容易の事
 ともあらずその初て傳習し其業を得るも若
 干の元金を費まづけむも又若干年の間ひ
 り其利分を得るゆへ元金を取戻きのみありば
 數多の利分を収むるありを得るし斯く利分と
 專らしむるありを得せしむるハ第一に傳習せ

一功く報る所以あり右の如く第一に傳習せし
 者に數多の利分りるを見バ餘人もまゝ我一人
 競て新術を傳へ或を發明せんまゝを欲し彼寫
 真鏡を傳へば我ハ傳信機と傳へん我と時
 計を造るあゝを習はんあゝ皆々あゝ心を
 用ひ様々の妙法を傳習し或ハ發明まゝ至る
 一是國家の富み榮る根元あゝや

文明
 開化 内外事情卷之二終